

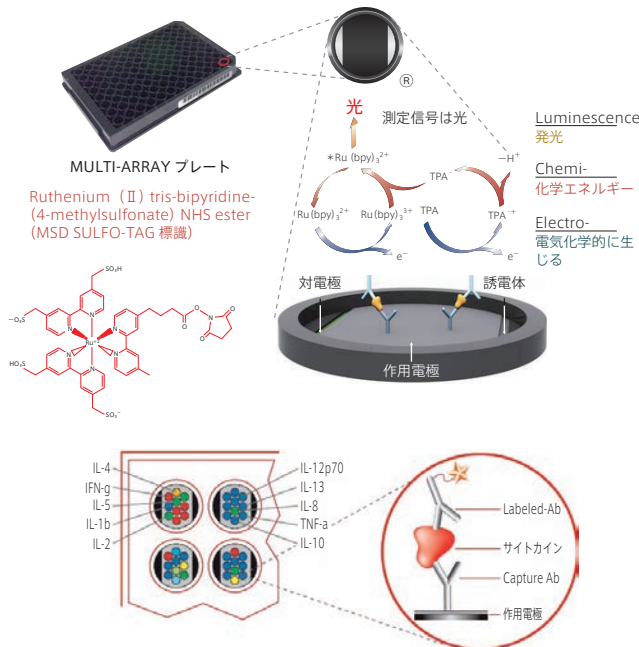


ECL 法 (電気化学発光法) 高感度サイトカインアッセイ 解析受託サービス

電気化学発光法 (ECL 法 : Electrochemiluminescence) による高感度サイトカインアッセイを行います。ELISA では測定できない低濃度の試料についてもご相談を承ります。

特長

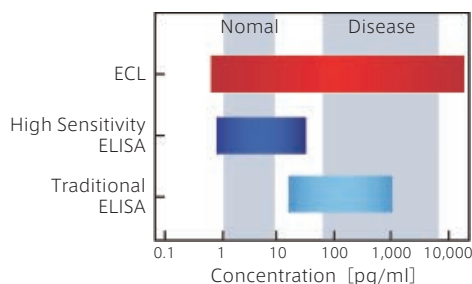
- ECL 法は、標識物質を電気化学的刺激により発光させ、発光量からターゲット量を算出する、高感度で幅広いダイナミックレンジのアッセイ法です。
- 生体試料中の夾雑物の影響を抑えられます。
- 同時多項目解析 (マルチプレックスアッセイ) が可能です。
- 使用機器 : QuickPlex SQ 120 (MSD 社製)
- 使用試薬 : V-PLEX, U-PLEX, R-PLEX, S-PLEX (MSD 社製)



MSD ヒト TH1/TH2 サイトカインアッセイの例

MULTI-SPOT プレートのウェルには複数のスポットがあり、各スポットには特定の生物学的アッセイのための捕捉抗体が結合します。各アッセイは独立しており、各被分析物がそれぞれ最高の性能で検出できるように最適化されます。

ELISA との検出範囲の比較



一般的な ELISA および高感度 ELISA と比較し、ECL 法は広範囲の濃度を測定できる。

ご注文方法/価格

詳細は、当社受託・特注品担当までお問い合わせ下さい。
[メーカー : MNB]

ショットガン変異導入法による エピトープマッピングサービス

アラニンスキャニング変異誘発法 (以下、ショットガン変異誘発法) を用いて、モノクローナル抗体のエピトープを正確に同定します。単一のアミノ酸分解能で立体配座エピトープを確実にマッピングできる唯一のハイスループット技術で、これまで 120 を超える特許および使用文献があります。

※文献の詳細は Integral Molecular 社 Web の「RESOURCES」をご覧ください。

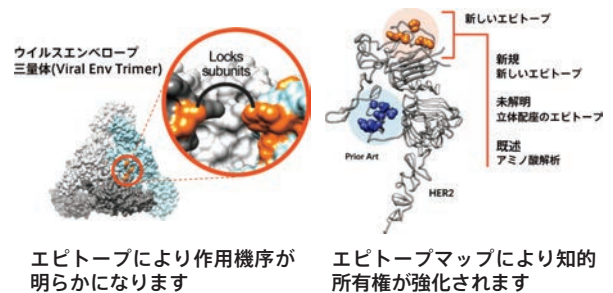
ここがすごい

ショットガン変異誘発法とは

標的タンパク質のアミノ酸を 1 つずつ、アラニンに点変異させ、立体構造を保持したまま各変異体をヒト細胞でハイスループットに発現させることにより、モノクローナル抗体のエピトープを正確に同定します。複雑なタンパク質や立体配座エピトープの場合でも、95% を超える成功を収めた高解像度エピトープマッピングです。1,000 以上のエピトープマッピングの実績があります。

本法によるエピトープマッピングの有用性

高解像度エピトープマッピングにより、作用機序を明らかにすることによる主力候補物質の選択、および知的所有権の強化によってモノクローナル抗体の保護が可能になります。



実施例

- GPCR, トランスポーター, およびウイルスエンベロープタンパク質上のエピトープ
- 立体配座エピトープ
- マルチサブユニットタンパク質上のエピトープ
- レセプターの状態依存性エピトープ

サービスの種類

抗体エピトープマッピングサービス

目的タンパク質用にアラニン走査変異ライブラリーを作製し、フローサイトメトリーによりお客様の抗体/リガンドの結合をテストしてエピトープ残基を特定します。

迅速化 ReadyMap エピトープマッピングサービス (オプション)

主要部位の選択をより早めるため、完全長、事前構築、事前検証済みの ReadyMap Library で、迅速にエピトープマッピングを行います。

低分子結合部位のマッピングサービス (オプション)

機能アッセイを用いてライブラリー上で低分子のスクリーニングを実施し、結合または機能に重要なアミノ酸残基を特定します。

ご注文方法/価格

詳細は、当社受託・特注品担当までお問い合わせ下さい。
[メーカー : IMI]